

運動失調

英語名： ataxia

A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

運動失調は、医薬品の服用によって起こる場合もあります。睡眠薬、抗不安薬、抗うつ薬、抗てんかん薬、抗がん剤など、さまざまな薬で起こることが知られているので、何らかのお薬を服用していて、次のような運動失調の症状がみられた場合には、放置せずに医師・薬剤師に連絡してください。

「手足の動きがぎこちない」、「箸が上手く使えなくなった」、「ろれつがまわらない」、「ふらつく」、「まっすぐに歩けない」

1. 運動失調とは？

運動失調とは、手足の麻痺がないにもかかわらず、種々の動作や運動が正しく円滑にできなかつたり、ふらついてまっすぐに歩けない状態を指します。通常、私達が何かの動作、運動を行う場合、動きに必要な身体のさまざまな筋肉が同時に、あるいは順を追って全体として協調して収縮します。運動失調では、この筋収縮の協調が失われるために正しい動きができなくなります。口唇、舌の動きもぎこちなくなるため、ろれつがまわらず話しづらくなります。また、体のバランスが失われるためにふらついてしまいます。例えば酒を飲み過ぎて酔っ払ったときのような、グラスにビールを注ごうとしてこぼす、ろれつがまわらず舌足らずな話し方になる、千鳥足でふらついて歩く、といった運動の乱れがその代表です。

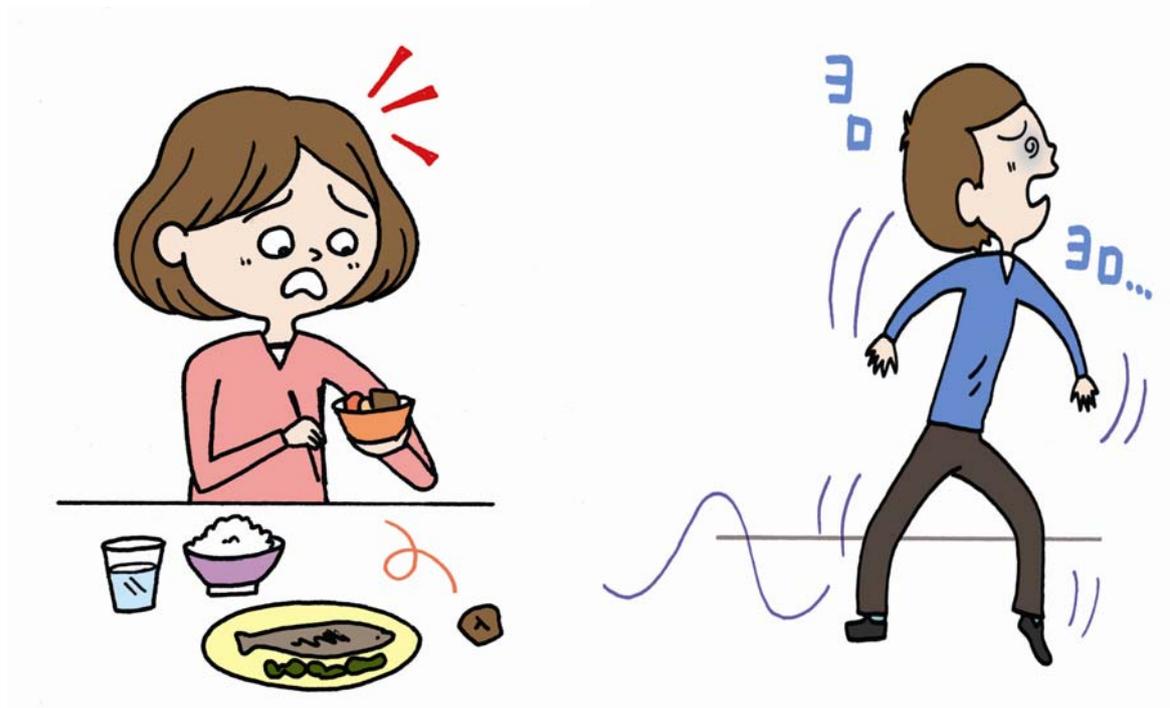
運動失調は、大脳、小脳、前庭、脊髄、末梢神経とさまざまな部位の障害で出現しますが、医薬品の副作用としてあらわれる運動失調は、大脳、小脳の障害に起因することが大半なため、本マニュアルではこれらの原因となる薬剤について解説します。

医薬品による運動失調には、もともと神経系の疾患や外傷により運動失調を持っている方が医薬品により症状が悪化する場合と、何の素因もない方が医薬品によって運動失調を起こす場合があります。

2. 早期発見と早期対応のポイント

運動失調では、とくに先立つ症状(前駆症状)があらわれるわけではありません。医薬品を服用して次のような失調症状を認めたら、すぐに医師・薬剤師に相談し、病院を受診してください。

「手足の動きがぎこちない」、「箸がうまく使えなくなった」、「字が下手になった」、「ろれつがまわらない」、「ふらつく」、「まっすぐに歩けない」



※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することができます。
(<http://www.info.pmda.go.jp/>)

また、薬の副作用により被害を受けた方への救済制度については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページの「健康被害救済制度」に掲載されています。
(<http://www.pmda.go.jp/>)